

# 入院診療計画書

年 月 日

病棟:( )

診断名: 腹腔鏡下上部穿孔手術 ver. 1

特別な栄養管理の必要性: 有・無  
推定される入院期間: 5日間

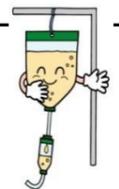
様

主治医:

担当看護師:

患者様サイン欄:

ご家族サイン欄:

	手術当日(手術前)	手術当日(手術後)	手術後1日目	手術後2日目	手術後3日目	手術後4日目	退院日
達成目標	手術の必要性が理解できる。 不安なく手術が受けられる。	術後合併症の兆候がみられない。 疼痛コントロールが行なえる。	疼痛コントロールを行い、早期離床が行なえる。				→
安静度・リハビリ・退院	症状に応じて動くことができます。	・症状に合わせて体を動かしていきます。	・初回歩行時は、看護師が付き添います。その後は自由に歩けます。 ・回復にむけてなるべく体を動かしていきます。 ・部屋を移動します。	・院内を自由に歩くことができます。		→	・症状を確認し、問題がなければ退院ができます。
食事	入院時から絶飲食となります。		・手術後、医師の許可が出てからむせなければ、水を飲むことができます。	・昼食から流動食が摂れます。 ・状態に応じて、食事の開始が変わります。	→	・昼からソフト食が摂れます。	・昼から軟菜食が摂れます。
注射・薬剤		・点滴があります。 ・痛み止めと胃薬を飲みます。			→		
検査			・胸部と腹部のレントゲンがあります。 ・採血があります。		・胸部と腹部のレントゲンがあります。 ・採血があります。		・採血があります。
処置	・手術室に行く前に、全ての衣類を脱ぎ、T字帯、弾性ストッキング、術着を着用します。	・マスクを着け、酸素吸入を行います。 ・手術室で痛みどめの管を背中に入れます。 ・心電図モニターをつけます。 ・鼻から管が入っています。	・歩行後、弾性ストッキングを外します。 ・心電図モニターを外します。 ・先生の許可が出たら鼻の管を抜きます。		・背中中の痛みどめの管を抜きます。		
清潔	・朝の歯磨きを必ずしてください。		・看護師が蒸しタオルで体を拭きます。		・背中中の痛み止めを抜いたら、シャワーを浴びることができます。	→	自宅に帰ったあとは入浴することができます。
排泄	・歩いてトイレに行くことができます。	・手術室で尿を出すための管を入れます。	・歩くことができれば、尿の管を抜きます。 ・尿の管を抜いた後は、歩いてトイレに行くことができます。(尿の管を再度いれることもあります。)	・歩いてトイレに行くことができます。			→
患者様及びご家族への説明	・麻酔科医師による手術前の診察があります。 ・看護師が入院後の生活、入院・手術に必要な物品の説明をします。	・医師から手術結果についての説明があります。					・医師が退院について説明します。 ・薬剤師が退院後の薬の内容と管理について説明します。 ・看護師が退院後について説明します。

注1) 病名及び治療内容等は、入院時に考えられるものですので、検査・治療を進めていくにしたがい変更することがあります。

注2) 入院期間、表記の日時については入院時での予定です。